

第5回長岡京市上下水道事業審議会

日時

平成30年8月30日(木曜日)午後1時30分～3時15分

場所

長岡京市役所大会議室A

出席者

大谷委員、片山委員、小坂委員、佐藤委員、西川委員、西村委員、山田委員、山根委員、山本(順)委員、山本(一)委員

欠席者

角山委員、丸山委員、

事務局

滝川上下水道部長、中路水道技術管理者、川村上下水道部次長、榊田上下水道部総務課長、鵜野下水道施設課長、中村下水道施設課課長補佐、市橋下水道施設課施設係長、河原総務課下水道係長、小林公営企業会計指導員、

傍聴者

傍聴者2名

配布資料

- 資料1 今後の下水道事業環境について
- 資料2 下水道ビジョンの施策構成について
- 資料3 下水道事業の具体的な取り組み

議事

1. 議題

(1) 今後の下水道事業環境について

今後の下水道事業環境について事務局から説明。

【質疑応答】

(委員)

最近の気候変動が激しいので、常識的に考えられる雨量ではない場合もあるが、そういったことも踏まえた計画となっているか。

(事務局)

ここ最近の降雨状況をみると計画の1時間あたりの降雨量を超える降雨もありえるが、一定の基準を設けて整備する必要があり、京都府桂川右岸流域下水道雨水事業の基準(1時間当たりの降雨量61.1mm)に準拠して基準を設けている。それらを合わせて、減災対策としてハザードマップ等で情報提供していきたい。

(2) 下水道ビジョンの施策構成について

下水道ビジョンの施策構成について事務局から説明。

【質疑応答】

(委員)

降雨への対策が「安全安心」としてまとめられており良いと思う。

(3) 下水道事業の具体的な取り組みについて

下水道事業の具体的な取り組みについて事務局から説明。

<「安全安心」について>

(委員)

災害用マンホールトイレや雨水貯留タンクについて、住民の関心が下がっていると感じる。市のイベントや各自治会の自主防災等の際に、関心が高まるような取り組みを行うことはできないのか。

(事務局)

災害用マンホールトイレは小学校などでの防災訓練において組み立て練習などを実施している。保管場所の周知なども含め引き続き行っていきたい。雨水貯留タンクについては、交通機関でのポスター提示や市内の打ち水イベントでの説明など取り組みを行っているが、引き続き周知の方法を検討していく。

(委員)

雨水貯留タンクの貸し出しは行っているのか。

(事務局)

展示用のものがあるので、依頼があった場合は貸し出しを検討する。

(委員)

雨水貯留タンクについて、購入費用の助成は以前2分の1であったと思うが、いつから4分の3に拡大したのか。こういった取り組みも良いと思うので、大々的にアピールしてはどうか。

(事務局)

平成27年度から4分の3に、上限を4万5千円として拡大している。

(委員)

幼稚園や保育所などの公共施設にも雨水貯留タンクは設置されているのか。事業所や一般家庭等、設置場所の内訳を教えてください。

(事務局)

ほとんどが家庭に設置されているものである。公共施設の設置については進んでいない。事業所への設置は少しずつ増えている。

(委員)

幼稚園や保育所などでの節水教育にも活用できるのではないか。次に、いろは呑龍トンネルはどこまで完成しているのか教えてほしい。

(事務局)

北幹線と寺戸川ポンプ場、乙訓ポンプ場については完成している。南幹線については現在工事中であり、平成 33 年度に一部完成予定で、呑龍ポンプ場を含め平成 35 年度に全て完成し、全面供用開始する予定である。

(委員)

アンケート調査結果で不安を感じる者の割合が 3 割以上となっているが、これは一般的にみて高いのか。また地域や年齢などにより不安を感じる者の割合に差があるのか。地域差などがあるのであれば、不安を感じる者の割合がより高い層に対して、重点的に不安解消対策をとられてはどうか。さらに、災害時の避難についての教育は具体的にされているか。

(事務局)

地域ごとでのクロス集計を実施していないので、地域差は把握できていないが、河川の周辺地域の住民が不安を感じているのではないか。年齢ではクロス集計では、年齢層が高くなればなるほど不安を感じる者の割合は高くなっている。

(事務局)

ここ数年のアンケート調査では、平成 28 年 7 月の京都市の結果があり、不安を感じる人の割合は、1 割程度と比較すると本市は高くなっている。

(事務局)

雨水事業を進めて行くなかで、小中学生向けには学校側とも協力し、一般の方々へは関係機関と協議して、事業内容や避難訓練などの情報提供の方法を検討していきたい。

(委員)

計画における整備率の目標については、具体的な地域はどのようになっているのか。また、計画目標値は80%となっているが、残りの20%は整備が残るということだと思うが、コスト面など整備しない理由についても教えてほしい。

(事務局)

目標区域は配布資料の排水区図(別添図1)で示しているとおりである。今回の計画期間の最終の平成41年度において80%程度とすることを目標している。その後の計画では100%の整備率を目指して、整備計画を検討していくが、事業費もかかるため、実際の整備実施に伴い5年後、10年後に再度見直すことになる。

(会長)

排水区図のなかで、平成36年度や平成41年度時点での整備地区や平成41年度における未整備地区を示すことは難しいのか。住民としては自宅付近の整備状況に興味がある。また、ハザードマップとの連携も必要である。整備後のハザードマップを提示することで、住民に将来的に安心な状態を示すことが望まれる。

(事務局)

ハザードマップ全体の取りまとめは防災担当で、今年度更新する予定であるが、平成35年度に、いろは呑龍トンネルの整備が完了する予定で、そのタイミングで内水ハザードマップを見直す予定。具体的に排水区図に反映していくことは、予算等も確保したうえで具体的な整備計画を示したい。

(委員)

排水区図における緑の部分は今後整備されるということだと思うが、白い部分の取扱いはどうなるのか。

(事務局)

白い部分については整備しないのではなく、まず、いろは呑龍トンネル関連等の整備を進めていく。全ての地域をすぐに整備できないので、これまでの浸水被害の想定の中で、被害の大きい地域を優先的に整備していくというものである。

(委員)

ハザードマップや市民ガイドブックのなかにも今後の整備計画等を工夫して織り込んでいただけたら、自主防災会での研修にもより活用できる。

<「環境保全」について>

(委員)

マンホールポンプについて、実際に過去に大きな問題が発生していないのか。また、不明水については他の項目と同じように数値目標をたてることは難しいのか。

(事務局)

マンホールポンプについては、9か所で毎月点検を行っており、稼働状況によって故障しやすくなるため、点検のなかで問題があれば更新することとしている。

(事務局)

不明水については、乙訓地域の他市町と同程度の水準であるが、京都府の他の流域下水処理を受けている市町では差が生じている。京都府からの処理場別の排水量データも参考に個別に不明水のカメラ調査を実施し、できる限り不明水を減らす対策をしていきたい。

(会長)

不明水が生じれば住民が余分な費用を払うことになるため、原因調査は続けていく必要がある。

(委員)

マンホールポンプについて、災害等で作動させることが必要になった場合、誰が作動させることになるのか。住民が作動させることもできるのか。

(事務局)

マンホールポンプが故障した場合、速やかに職員が委託業者と伴に点検のうえ作動させるため、住民が作動させる必要はない。

<「健全経営」について>

(委員)

基準外の一般会計繰入について、「段階的に見直す」という意味合いを教えてください。また、「段階的に」という文言の期間は5年程度毎などを想定しているのか。

(事務局)

基準外の一般会計繰入は高額であり、一度に解消するのは難しいため少しずつでも減らしていくという意味合いである。基準外の一般会計繰入の減少のためには、使用料収入を増加させる必要がある。下水道使用料は5年間の料金算定期間で算定することとされているため、5年程度毎で繰入水準も見直すこととなる。

(委員)

健全経営は非常に重要な課題であり、水需要の減少の影響や今後の更新コストの増加など、もう少し全体感を示したほうが良い。現在の資料では経営状況がどのように厳しいことが伝わりにくくなっている。一般会計からの繰入についても、市の財政の問題もあるので今の水準で続けることも難しくなっていると思う。一方で、下水道使用料の見直しのためには、前提として経費削減努力や広域化での効率化の実施も必要である。これらの状況をもう少し丁寧に説明する記述とされたほうが良い。

(委員)

「水だより」において記載されている上下水道料金について、住民から質問等の反応はあったか。こういった質問があるのであれば、上下水道料金の変遷など経営の状況についても、「水だより」など広報のなかで説明されてはどうか。

(事務局)

上下水道料金の仕組みについて説明するため、「水だより」で掲載したが、これを読んだの上下水道料金についての質問はなかった。経営状況の広報のあり方も検討したい。

(委員)

「健全経営」について、実際に事業が健全かどうかの判断指標や判断の考え方を教えていただきたい。

(事務局)

一般会計からの繰入は総務省が定めた繰出基準の範囲でされるのが望ましく、基準を超える繰入は少しでも減らしていきたい。減らせた部分は雨水事業を進めていくために使いたい。従って、基準外繰入を減らすことが健全化であると考え、表現している。

(事務局)

次回以降の審議会において、健全かどうかの検討のためにも具体的な経営指標数値での他団体比較も行っていくので、そちらでも再度検討してほしい。

(委員)

上下水道部のホームページについて、アクセス数の増加や他の課などと比較した際のアクセス状況などについて把握しているか。

(事務局)

ホームページは、市全体で統一的な作りこみとなっているため、上下水道部のアクセス状況は把握できていない。

(会長)

下水道の整備には多額の費用がかかっており、将来的に更新する場合にも多額の費用が必要となる。現在の市の使用料の水準は低くなっており、基準外繰入で調整している。他市の状況も含めて、使用料の水準を検討していく必要がある。

2. その他

以下の内容を事務局から説明

・次回審議会開催日程 11月26日(月曜日)13時30分～

3. 閉会

事務局あいさつ